

バリアフリー研修 2017



2017/04/05

アルダビール市、テヘラン市、キャラジ市にて

イラン滞在 11 日間で 8 回のバリアフリーワークショップを行いました。かなりのハードスケジュールでしたが、受け入れ側の準備ノウハウが、キャラジ市役所から伝達されていて、WS 開催の労力は、大分少なくなりました。

バリアフリー研修 2017

アルダビール市、テヘラン市、キャラジ市にて

1. アルボルズ州知事と面談(第1面写真)

私たちがホームとしているキャラジ市を中心都市とするアルボルズ州の州知事サイドハミド氏が、私たちのバリアフリー専門家と面談し、これまでの私たちの活動を激励しました。知事は各自治体で福祉の取り組みが競い合いとなれば、それが文化となり、障害者の権利を守るインセンティブとなると言いました。また、キャラジ市の整備担当者は、私たちの取り組みが、非常に実用的であると評価しました。

事業

事業概要: 障害者も含め、だれもが外出しやすいBFまちづくり。イランの障害当事者と市役所職員との協働作業(WS)で検討する研修手法の紹介と技術移転。日本のBF整備技術の紹介。BF改善アドバイス。

ミントの会 BF 専門家スタッフ: パンシャイ・モハメッド(ミントの会理事長)、寺島薫((株)アークポイント)、福永順彦、宮地茂子((有)プレイス)

実施場所: キャラジ市役所ほか、アルダビール市役所ほか、テヘランベヘジスティほか



2. アルダビール市でのバリアフリーワークショップ(BFWS)

アルダビール市は、人口約 48 万人で、イランの中堅都市。カスピ海とアゼルバイジャンとに近い、標高 1200m 程の位置にあります。世界遺産(シャイフ・サフィーアッディーン廟の歴史的建造物)があります。

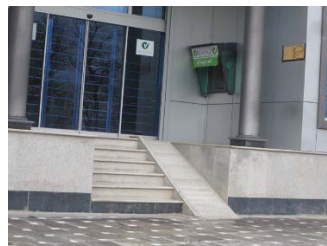
WS は、三日間(①技術を学ぶ②フィールドで気づく③BF 改善の提案)行いました。各セッション 40 名から 50 名の参加でした。

BF 会議および市内 BF 設備

アルダビール市役所にて、障害者も出席した、BF 会議。下段は、市内の BF 設備。



アルダビールの BF 設備



BF 研修

BF 研修 ①技術を学ぶ

座学とモデル誘導ブロックを利用して、技術を学びます。



②フィールドで気づく



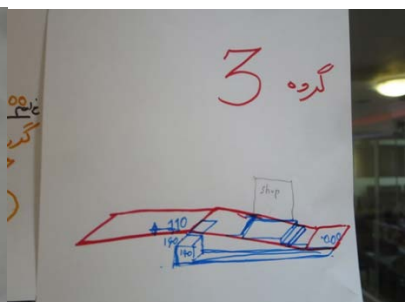
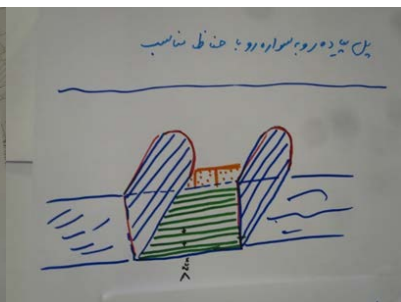
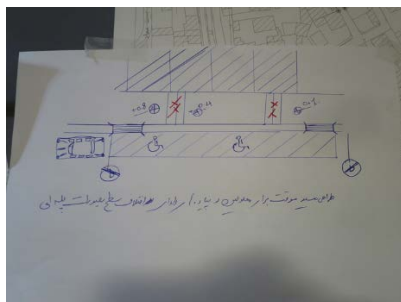
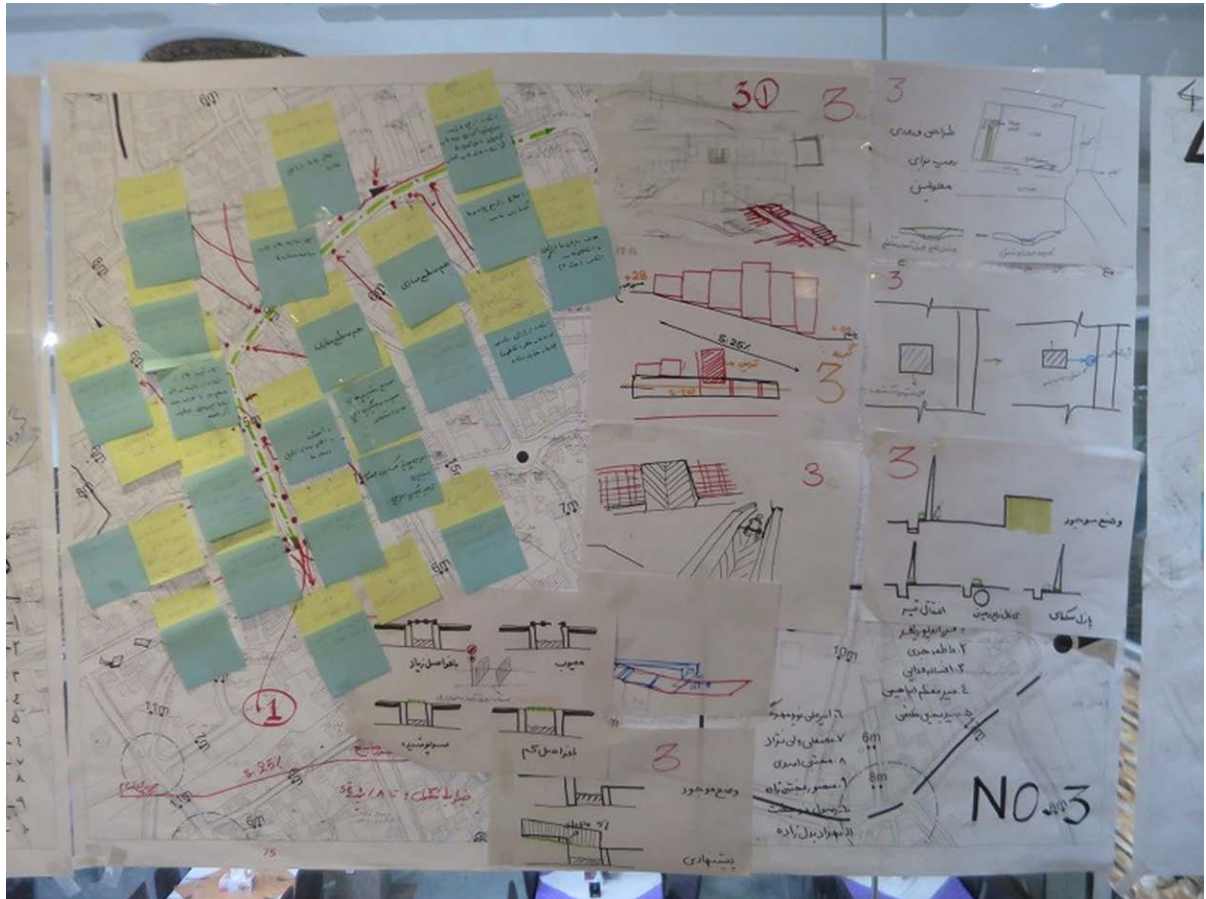
イランの誘導ブロックと日本規格の誘導ブロックを比べています。



街歩きで気づいたことを、グループでまとめます。



③改善の提案



改善案がぞくぞく提案されました。

3. テヘラン市ベヘジスティ BF 研修

テヘラン市は人口 880 万人のイランの首都。今回、テヘラン市のベヘジスティ(福祉を扱う国の機関)で、BF 研修を行いました。ベヘジスティは、福祉を必要とする市民に対してサービスを提供する組織ですが、今回、たくさんの障害当事者とともに BFWS を行いました。

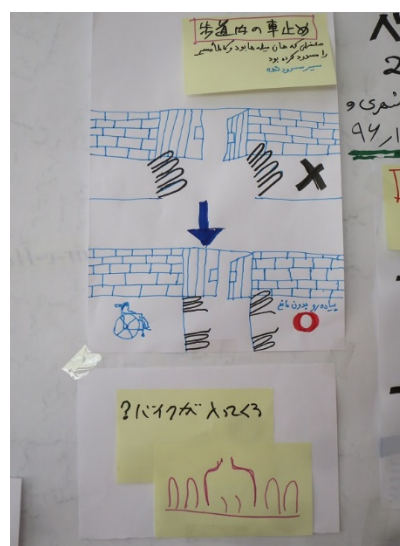
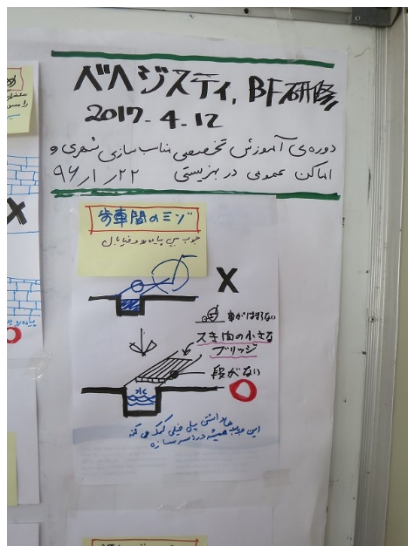
誘導ブロック体験と街歩き

日本規格誘導ブロックで誘導ブロックの働きを学び、街へ出て、街中の歩道や道路設備を見て回り、不都合な点をチェックしました。



街歩きの課題の整理と改善案

街歩きで気づいたことを全員で話し合い、マップ上に整理した後、改善案を議論しました。



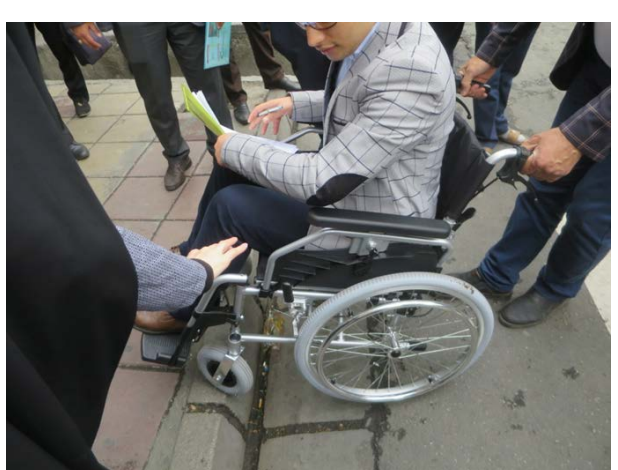
キャラジ市 BF 研修

キャラジ市での BFWS は今年で 5 回目になります。毎回、新たな参加者があり、人口 200 万を抱える役所の担当者が順次出席します。





キャラジ市ベヘジスティ通りの街歩き



商店の入り口の段差、歩道と車道との間の排水用凹みなど、これまでの街の作りの中には、多くの障害がありました。



改善案の検討

街歩きで気づいた課題について、市役所の担当者を中心とした参加者で、具体的な改善案を検討しました。



各グループでの話し合いの後、検討結果を全体の中で発表し、アイデアを共有しました。



キャラジ市のスタッフとともに、互いの労をねぎらいました。